製藥會社　三平會社　城東製作所　渡邊鐵工所　井崎鐵工所　作山鐵工所　木戸鐵工所　田中電氣所　中央鐵工所　砲兵工廠　坪佐鐵工所　中村電氣　電話工業

等二十數箇工場で勞働組合運動がやゝ下火になつたと稱せらるゝ大正九年度も極めて地味であるが一歩一歩堅實なる發達を遂げたのである、又種類から言へば機械及ひ電氣工業が、中心であるは言ふ迄もないが今や製藥及紡績工業に從事せる諸君も加盟し殊に婦人勞働者が漸次增加の傾向である

穩健なれ底力あれと叫んで立つた組合運動が斯くの如く圓滿なる發達を遂げつゝある事は、組合員總てが協力一致の力に依るは言ふ迄もないが、支部幹部たる

高橋金五郎　吉次唯市　藤野金次　中村慶藏　黑田德松　大船金造　谷藤森太郎　桑島武夫　氏谷正太郎　蘆田久太郎　大野廣宗　峯秀一　小濱清春　山田辰二郎　尾關忠城　森村敏　林久一　上田甚五郎　武田權二郎　岩城良造　宇津晴吉　杉浦市太郎　佐藤一雄　植松一三　上村由松　瀨野久司　金田林太郎　川口千秋

氏等の獻身的努力に負ふ所が少くない、今は大阪の土地を去つた人もある故人になつた人もある。然し何れの土地へ行つても必ずそこには組合運動が行れた。例へば植木武田両君は廣島勞働組合を組織し高瀨君は金澤で赤澤君は山口で何れも組合運動を續行してゐる況んや今尙ほ組合に止まつて中堅として立つ我同志等は飽迄も敢然として健闘を續け我等が期待せる理想社會の建設に向つて驀進しつゝあるのである。

第十章　鐵工組合の行動

ペルリ提督の來航にも比すべき勞働會議は全國に潮の樣に勞働組合運動が起つた。中にも八幡製鐵所に於ける勞友會の如きは最も戰闘的な勞働團体があつたが。二月の製鐵所同盟罷業は遂に七十に餘れる檢束者と二百を超る、解雇者とを出し勞友會幹部殆んど全滅の悲運に遭遇したれば、抗夫協會幹事川島眞二君關西に來たり其の應援を求めた、關西勞働團体は阪本孝三郎氏及ひ東忠續植田增吉氏等急ぎ西下せしめ阪本氏等は眞摯たる態度